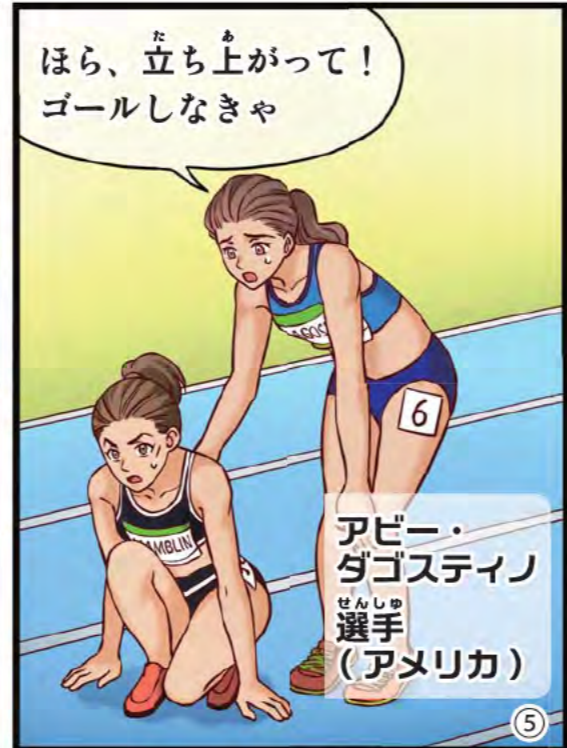
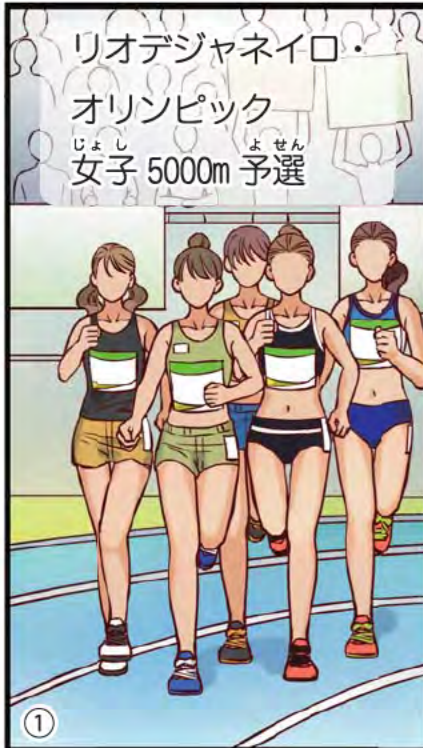


FAIRPLAY NEWS

フェアプレイで
日本を元気に
あきらめ、あきらめ、あきらめ



金メダルよりも美しいゴール



リオデジャネイロ・オリンピック 女子5000m予選

①

②

③
あー、もうダメ…
ニッキ・ハングリック選手 (ニュージーランド)

④
ほら、立ち上がって！
ゴールしなきゃ
アビー・ダゴスティノ選手 (アメリカ)

⑤
ダゴスティノ選手の励ましに、ハンブリン選手は心を立て直して、2人で走りだした

⑥
しかし、ダゴスティノ選手は足首を痛めて走れる状態ではなかった

⑦
すると今度は、ハンブリン選手がダゴスティノ選手を励ますように寄り添う

⑧
そして、励ましあいながら、走りだす2人

⑨
2人のゴールに、会場は歓声に沸いた

⑩
助け合う姿には、これこそオリンピック精神だと、多くの称賛が集まった

⑪
IOC(国際オリンピック委員会)は互いに相手を思いやった2人をたたえ、フェアプレー賞を贈った



オリンピックへの道 カヌースプリント競技 八角周平選手

どんな時でも全力で挑み、夢に向かって漕ぎ続ける。



八角選手が乗っているのは、カナディアンカヌーと呼ばれるもの。友達数人とはじめて乗った時、自分だけ沈まずに乗れたことから、自分にあっていると思い、競技を始めたそうです。カヌーをコントロールするのは難しく、力では他の選手にかなわなくても、技術でカバーできるところがこの競技の面白さでもあると語ってくれました。フェアプレイについて話が及ぶと、ある大会で優勝はしたのですが、全力で戦わなかったことを反省していました。100%の力を出し切らなければ自分のためにもならないし、他の選手にも失礼だからと。いつも全力で挑みつづけている八角選手、すでに東京オリンピックに向かって漕ぎ出していました。



鍛え上げられた胸筋がすごい



直線コースでスピードを競うカヌー・スプリント。片側を漕いでバランスをとりながらまっすぐ進ませるのは難しい。

わたしのフェアプレイ 藤澤五月(カーリング) 感謝を伝えるには、結果を出すしかない。



私は、ソチオリンピックを目指し名古屋のチームに所属していましたが、最後の決戦で敗退。目標がなくなり、一時カーリングから離れていました。地元の人から「オリンピックに出ている姿を見せてほしい」と言われたのをきっかけに、地元北海道のチームに参加。子供の頃に「しっかり挨拶しなさい」と叱って

くれた人たち、やさしく迎えてくれたチームメート、運営スタッフ、仕事仲間…。今はここで、多くの人に支えられてカーリングができていることを実感しています。だから、今のチームで日本選手権を優勝した時は、「やった」というより「ありがとう」の気持ちのほうが強く湧いてきました。

1991年生まれ。カーリングが盛んな北海道常呂町の近くで育ち、5歳からカーリングを始める。2015年から所属する地元のチーム「ロコ・ソラーレ(LS北見)」で日本選手権を制し、世界選手権に出場。準優勝し日本初のメダルを獲得。

※日本体育協会の広報誌「スポーツジャパン9・10月号」に詳しい記事を掲載しています。

